

2025 年度名古屋学芸大学健康・栄養研究所 研究・実践報告

■研究・実践の課題（テーマ）

実務者のための栄養ケアプロセス研修会

■主任研究者 塚原丘美

■共同研究者 立花詠子、畠山桂吾

■研究・実践の目的、方法、結果、考察や提案等の概要

【目的】

管理栄養士として対象者への栄養ケアにどのようなアプローチが必要なのかを考えるために、短期集中的にグループディスカッション等をしながら、広い視野をもって患者さんの栄養管理計画を作り、どのようなアウトカムを期待して PDCA を回していくのかを深く検討できるようになることを目的とした研修会を行った。今年度もベーシックトレーニングと分野別ワークショップの2部形式で開催した。

【方法】

対 象： 医療・福祉分野で栄養管理を行っている実務者（管理栄養士）

日 時： 2026年2月22日（日）10：00 ～ 16：00

場 所： 名古屋外国語大学名駅キャンパス（サテライト）および オンライン（Zoom）

1部 10：00～12：00 ベーシックトレーニング（対面およびオンライン）

「入院の栄養管理だけじゃない！地域を支える市民病院栄養科の新しい形」

蒲郡市民病院 藤掛 満直 先生

「介護医療院から在宅へ～慢性期医療を知る～ 管理栄養士も居宅へ訪問しています」

岡崎東病院 木原 八千代 先生

岡崎東病院 小口 詩織 先生

2部 14：00～16：00 分野別ワークショップ

①入院（#ICU #がん #NST #リハ栄養 #給食管理） 現地開催のみ

「ICU入室から退院まで繋ぐ包括的栄養ケア～web アンケート活用症例検討会～」

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 林 衛 先生

愛知医科大学病院 原 なおり 先生

②外来・地域（#栄養指導 #嚥下障害 #在宅 #要介護） 現地開催のみ

「あなたはいま、患者さんの“生活”や“望み”をイメージできていますか？

～ワークを通して考える一歩先の提案～」

蒲郡市民病院 藤掛 満直 先生

医療法人かがやき総合在宅医療クリニック 西野 菜生 先生

【結果・まとめ】

今回も2部制に分けて行った。午前中のベーシックトレーニングには対面約50名（うちスタッフ3名）、オンライン10名が参加した。午後の分野は今年度、再編して新しい2分野になった。午後は対面のみで開催で、入院分野8名、外来・地域分野30名が参加した。

終了後のアンケートでは、午前、午後のどちらも、受講前と比べて参加当初の目的達成度、理解度が受講後は上がっていた。よって、全体を通して非常に有意義な研修であったと考える。